| 学校番号 | ３２０ |
|---|---|

令和３年度　理科

| 教科 | 理科 | 科目 | 生物基礎 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 改訂版新編「生物基礎」　（数研出版） | | | | | | |
| 副教材等 | 生物基礎準拠ﾉｰﾄ　まとめと問題　（数研出版） | | | | | | |

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

いろいろな視点で生物の世界を見ていきましょう
ＤＮＡやタンパク質といった分子　　さまざまな細胞の姿　　細胞が集まってできる個体の様子　多くの個体が影響を与え合う生物の集団　　生態系のバランスと人間の活動　　など
生物の世界はいろいろな顔を見せてくれます

２　学習の到達目標

「生物とは？」という疑問にせまるため
・生物の特徴
・遺伝子とそのはたらき
・植生の多様性と分布
・生態系とその保全　　について意欲的に学び理解すること

３　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:観察・実験の技能 | d:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ・生物の世界に興味・関心を持ち、積極的に学習する<br>・身の回りにあるものと学習内容の関連に興味を持つ<br>・疑問に感じたことはそのままにせず自分で調べたり、質問する | ・中学校での学習内容をふまえ　学習を進める<br>・自分で問題を見つけ、解決する過程で科学的に考察する<br>・グループ討論を通じて学んだこと考えたことをまとめ発表する | ・顕微鏡の使い方やプレパラートの作り方をマスターする<br>・基本的な実験器具の扱いができるようにする<br>・DNA や光合成色素などの物質を分離する操作ができるようにする | ・重要な語句や意味をしっかり理解し、身に付ける |
| 評価方法 | ・授業の取り組みや出席状況<br>・ﾉｰﾄやプリントの提出<br>・実験・観察・実習の取り組み | ・授業の取り組み<br>・発問に対する応答<br>・小テスト・定期考査<br>・グループ討論の参加態度 | ・実験・観察・実習の取り組み<br>・レポートの内容 | ・準拠ﾉｰﾄの解答・採点・間違い直し<br>・小テスト・定期考査 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 1 | 第一編 | 生物と遺伝子<br>生物の多様性と共通性<br>エネルギーと代謝<br>光合成と呼吸<br>遺伝情報とDNA<br>遺伝情報の発現<br>遺伝情報の分配 | <br>○<br><br><br>○<br><br> | <br><br>○<br>○<br><br><br>○ | <br>○<br><br><br>○<br><br> | <br><br>○<br>○<br>○<br>○<br> | a:細胞を構成する物質とその働きを探求する<br>b:細胞小器官の構造と特徴について考える<br>c:細胞を顕微鏡で観察する、DNA を抽出し観察する<br>d：代謝の仕組みや DNA のはたらきを理解する | グループ討論・ノート提出・実習・準拠ノート・小テスト・定期考査 |
| 2 | 第二編 | 生物の体内環境の維持<br>体内環境としての体液<br>腎臓と肝臓による調節<br>神経とホルモンによる調節<br>免疫 | <br>○<br><br>○<br>○ | <br><br>○<br><br> | <br>○<br><br><br> | <br><br>○<br><br>○ | a:動物の体液の役割を理解し，恒常性について探求する<br>b:人体の構造を考え、腎臓と肝臓の働きを理解する<br>c: 血球を観察する<br>d:体を守る仕組みを探求する | グループ討論・ノート提出・実習・準拠ノート・小テスト・定期考査 |
| 2 | 第三編 | 生物の多様性と生態系<br>植生とその成り立ち<br>植生の移り変わり<br>気候とバイオーム<br>身近な植生と環境について調査する | <br>○<br><br><br>○ | <br><br>○<br>○<br>○ | <br><br><br><br>○ | <br>○<br><br>○<br> | a: 多様な植生を知り、環境とのかかわりを理解する<br>b: 日本で見られる草原から森林への移り変わりを探求する<br>c: 調査区を設定し調査する<br>d: 植生とそこにすむ動物の集団を理解する | グループ討論・ノート提出・実習・準拠ノート・小テスト・定期考査 |
| 3 | 第四編 | 生態系とその保全<br>生態系とその成り立ち<br>物質の循環<br>生態系のバランスと保全<br>河川の水生生物調査 | <br>○<br><br>○<br> | <br><br>○<br>○<br> | <br><br><br><br>○ | <br>○<br>○<br><br> | a:生態系に関心を持ち探求する<br>b:炭素など物質が生態系を循環する仕組みを考察する、生態系の保全について考え表現する<br>c: 水生生物と水質のかかわりを調べる<br>d: 生態系がいろいろな要素のバランスによって成り立っていることを学習する | グループ討論・ノート提出・実習・準拠ノート・小テスト・定期考査 |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。